

## 経営危機をもたらせるもの

私の事業歴は創業が1971（昭和46）年ですので、この7月で44年目を迎えました。改めて考えてみますとアッと云う間のような気がしますし、一方大きなうねりの長い熱闘の毎日だったとも感じております。

この期間をふり返ってみますと、1985（昭和60）年に端を発したバブル経済が1992（平成4）年に崩壊。2008（平成20）年には世界的な大不況の引き金になったリーマン・ショックが発生。加えて2011（平成23）年3月の東日本大震災には思わず天を仰いだことでした。そしてここ数年は、会社のいわゆるバブル経済崩壊以降の「失われた20年」の後始末に全精力を傾けて努めて来た日々でした。

こうしてこれらに一応のメドをつけて感じてることを、今月のテーマといたしました。誰も自身が起業し事業歴を重ねて来ますと、折にふれ経営のピンチと云う事態に直面することがあります。その経営危機をもたらせるものひとつに、外的要因があります。

常々どのような企業も世界的な、また日本も同様ですが、政治や経済、自然災害なども含めた外的要因で経営基盤を揺らされます。

ですから特に中小零細な企業は、これら環境と云う海に浮かぶ小舟のような不安定なものと思わされるが多々あるわけです。

最近の事例として国内航空3位のスカイマークに関しての新聞の切り抜きのタイトルだけですが列記しますと

7月30日	日経新聞	スカイマーク苦境 大型機解約エアバス通告 700億円損害賠償も。 LCC 台頭で業績低迷
7月31日	日経新聞	スカイマーク、巨額「違約金」なぜ売買、キャンセル条項なく
8月4日	日経新聞	エアバス「A380」需要低迷で焦り 超大型機時代遅れに
8月7日	日経新聞	スカイマーク、成田撤退 着陸料など 年30億円削減
8月15日	日経新聞	路線10月から2割減 スカイマーク運賃最大69%上げ
8月19日	日経新聞	スカイマーク支援を検討 エアアジア経営権狙い、出資

記事を読み取りますと、契約を結んだ2011年当時、同社は国内線で高い水準の利益を上げており、資金調達も可能と考えていたとのこと。しかしLCCの参入などで業績が悪化し、12年3月末に306億円あった手元資金は今年3月末には70億円まで減少した。とあります。

この例を引くまでもなく、ものごとが上手く回転しているときの事業予測としての設備投資計画（国際線進出）は、大きな事業環境の変化に直面すると、ひとたまりもなく窮地にたたされてしまいます。

もうひとつは内的要因で、これは人災トラブルと云うものです。最近、世間を騒がせた事例として2つあげます。

・ベネッセホールディングスの連結子会社

**(株)ベネッセコーポレーションにおける個人情報漏洩** (平成26年7月)

(原因：社内に個人情報流出を防ぐ二重三重の対策がとられていなかった)

・マルハニチロホールディングス

**孫会社 アークフーズ群馬工場の食品の農薬混入事件** (平成25年12月)

(原因：契約社員が待遇に不満をもって製品に農薬を投入した)

いずれの事例も大企業の問題ではありますが、当該会社が今回の経営危機をどう克服していくかが問われているわけです。私たちとしては「人の(他社)のふりみてわが身(自社)を正せ」で今後の推移を冷静に見守り、学ぶべきことだと思っています。